図書館だより

2012.8
No. 18

長崎県立大学佐世保校附属図書館　〒858-8580　佐世保市川下町123
TEL 0956-47-2191（代表）　http://sun.ac.jp/lib

「学生に勧めたい一冊」

鴻　上　喜　芳
（流通・経営学科・准教授）

本年4月に、流通・経営学科に着任し、保険論とリスクマネジメント論を担当していますが、専門分野に関する本は別途勉強していただくとして、ここでは私の好きな言葉「是非に及ばず」に関する本を推薦したいと思います。

おすすめの一冊は明智憲三郎著『本能寺の変四二七年目の真実』（プレジデント社、2009年）です。明智憲三郎氏は明智光秀の子孫で、情報システム関係の会社勤めのかたわら本能寺の変の研究・調査を続け本書の執筆に至ったという異色の経歴です。作家としては素人でしょうからやや心配しつつ読みましたが、そんな心配は無用で、とても読みやすい文章でした。さらにご本人が言う「歴史捜査」というシステムエンジニアらしいアプローチで、謎の多いこの事変についてさまざまな人（秀吉なども含まれます）がつけた尾ひれ、またそれによって惑わされた解釈を排除し、それでも残る信憑性のある証拠に基づき、それらを論理的な推論でつないで、自分なりの説を提唱しています。その説とは、「光秀謀反の動機は氏族長として土岐氏の存続を図るためであり、本能寺で家康を暗殺しようとした信長の計画を逆手に取り信長自身を襲ったのであって、家康とは同盟が成立しており、一方秀吉は光秀らの計画に気づいて中国大返しを準備していた。」というものです。壮大な説ですが、歴史捜査手法の甲斐あってかなりの説得力を有しています。歴史好き・

信長好きな人はぜひ読んでみてください。

さて、私の好きな言葉である「是非に及ばず」は信長の最期の言葉として有名ですが、辞書によるとその意味は「しかたがない。やむを得ない。」などとなっており、信長の言葉としてはどうもしっくりきません。私がこの言葉を好きなのは、辞書が言うあきらめの意味でなく、「人のせいにはしない。どんな結末になろうとも受け入れる覚悟ができている。いつ命を落としても後悔しないほど精一杯やってきた。」などと解釈できるからでありました。

この著作からは「是非に及ばず」関連で二つの収穫がありました。一つは、本能寺の変に関する第一級の資料とされる『信長公記』の記述が確認できたことです。「是れは謀叛か、如何なる者の企てぞと、御諚（おおせ）のところに、森蘭（森蘭丸）申す様に、明智が者と見え申し候と、言上候へば、是非に及ばずと、上意候。透（すき）をあらせず、御殿へ

乗り入れ、・・・」戦闘態勢をとったとなっており、これを素直に読めば、現代の辞書的意味ではなく、文字通り「今明智をいいか悪いか論ずる暇はないととらえるのが自然です。私の解釈も行きすぎかもしれません。二つ目は、著者の説に立てば、「家康を暗殺しようとした自分に光秀の是非を問う資格はない」という意味すらあるかもしれないということが分かったということです。これだと意味転じてあきらめどころか自戒にまで至るといえるでしょう。

有斐閣アルマのススメ

大　田　謙一郎
（流通・経営学科・講師）

2012年1月図書館だよりNo.17の7ページを開いてみると、新川先生より“新書のススメ”といった新書の紹介がなされています。その紹介文のなかで新書というのは、小説あるいは文庫といった比較的読みやすいものから専門書といった少しハードルが高いものへ移行するときに、ちょうどそれら両者の間にあるギャップを埋めてくる存在であることが指摘されています。

私が紹介する書籍はおそらくそれと同じような機能をもつであろう“有斐閣アルマ”についてです。しかし有斐閣アルマは、文庫と専門書のちょうど中間的な存在というよりも、むしろ専門書に入る前に読まれる、いわゆる入門書のような役割を果たしていると思われます。有斐閣アルマの刊行の目的は「多様化するカリキュラムのもとでの教えやすさ・学びやすさを追求し、豊かな情報量をコンパクト・サイズに収め、機能的編集を心がけた、新しい時代の大学教育に応えるシリーズです」とされています。上記の目的にあるように、大学の講義に使うテキストとしてしばしば用いられることがあります。

私がこの有斐閣アルマを薦める理由は、(1)専門分野に関する幅広い知見を理解することで、個人が興味をもてる専門分野の立ち位置が把握できること（2)レファレンス（参考文献）がしっかりしていること、(3)持ち運びやすいサイズであること、この3点です。

まず1つ目の理由は、専門分野に関する幅広い知見を理解することで、個人が興味をも

てる専門分野の立ち位置が把握できることです。たとえば私の専門科目であるマーケティング・リサーチは、経営学におけるマーケティングのなかの1つの科目に過ぎません。この他に流通・製品やサービス・広告・価格・組織などが挙げられます。有斐閣アルマでは、これらの内容が体系的に説明されています。それぞれの専門分野を総合的に理解することで、個人が興味をもつ専門分野が全体の議論のなかでどのような役割を果たしているのかなどを客観的に判断することができるでしょう。

次に2つ目の理由は、レファレンスがしっかりしていることです。例えば、“消費者行動論”では、主な著者は青木幸弘先生・新倉貴士先生・佐々木壮太郎先生・松下光司先生の4名です。この専門分野における著名な先生方がこの書籍に携わっており、他の有斐閣アルマについても同様のことがいえるでしょう。また参考文献をみても日本のジャーナルだけでなく、海外のジャーナルも参照されていることがわかります。内容も充実しており、さらにいい加減なレファレンスを参照しておらず、専門分野に関してより深く学習したい場合には役に立つでしょう。

最後の理由は、持ち運びやすいサイズであることです。通学中のバス・電車のなか、講義の合間や昼食後など空いた時間に読むためには、当然だが常にその本を持ち歩かなければならない。有斐閣アルマならば、鞄のなかもかさばらず、それほど重いと感じないでしょう。

もちろんメリットばかりではなくデメリットもありますが、上記の理由から私はこの書籍を推奨します。まずは手にとって見るところからはじめてみてはどうでしょうか。

許地山（落華生1894-1941）との出会い

松　岡　純　子
（地域政策学科・教授）

落華生というペンネームを持つ中国近代文学作家・許地山は、清朝末期・光緒19年末（1894年2月）に台湾の台南で生まれた。父・許南英（1855～1917）は、光緒16年の科挙（会試）に合格した進士である。日清戦争後の台湾割譲に際し、許一家は祖先の出身地である広東北部・揭揚に在住する宗族のもとに身を寄せた。許地山は、地方官となった父に従い広東各地を転々として成長した。辛亥革命（1911）後、官を辞した父とともに福建南部に移り住み、やがて福建系華僑学校教員として英領ビルマに渡航している。帰国後、北京燕京大学に進学し、在学中に数々の文学作品を発表して名をあげた。大学卒業後は、

アメリカ・イギリスに留学し、インド滞在を経て、母校・燕京大学の教員となった。1935年香港大学に移り、中文学院主任教授として学院発展の基礎を築いたが、在職中に惜しくも病逝した。

筆者は許地山と二度出会った。大学入学後、中国語の講読クラスで「春桃」（1934）という作品を読んだのが、最初の出会いである。大学卒業後、中国に一年間滞在する機会に恵まれた際、地方都市の書店で、背表紙が手垢で薄黒くなって擦り切れた『許地山選集』上下二巻本（北京人民文学社1958年初版・重刷本）を発見した。これが二度目の出会いである。当時としては珍しく、直接書棚から本を手にとって選書できる書店だったので、多くの人々が立ち読み・座り読みを繰り返し、熱心に読まれたことが歴然としていた。長く禁書扱いだった許地山とその作品自体の復活というだけでなく、この作者と作品を受け入れる人々の心の再生・復活なのだと、胸が熱くなった。買わずにそっと書棚に戻した。

大学院では、研究テーマとして『許地山』を選んだ。論文執筆過程で、初期作品「商人婦」（1921）とタゴール（1861-1941）の作品「在加爾各答途中」（1921許地山訳）が、語り・構成・登場人物の配置などにおいて類似することに気がついた。しかし、二作の女性主人公の形象は大きく異なっており、福建南部からシンガポール・インドへ渡る苦難の中で自立していく女性像を描いた点に、許地山独自の人生観・宗教観が込められていることを論述した。この活字になった第一論文以来、ずっと「許地山」を「追いかけ」ている。「許地山は研究に値するいい作家です。是非、研究を続けなさい。」中国語の手ほどきをしてくださった啓蒙の師であり、「西欧の衝撃」とアジアの近代への興味をかきたて中国近現代文学研究の重要性を繰り返し説かれた、生涯にわたる恩師の言葉である。

許地山の人生の軌跡をたどり作品を読み込む過程で、関連する地域・社会・文化・歴史など、興味深い研究テーマが次々と出現してきた。そして、それぞれの作品の底に流れる、苦難の中にある弱き者への慈しみと慰め、故人への深い想い、人としての自立の可能性に寄せる希望の灯に心打たれ励まされ、今もなお研究を続けている。

雑誌の利用（活用）について

植　野　貴　之
（経済学科・准教授）

突然ですが、皆さん、雑誌を読んでますか？もちろん、大学の図書館で、です。大学の図書館というと、研究に関する本や雑誌が多いと思われるかもしれませんが、そうでないものも結構置いてあるんですよ。本については、最近では新刊のベストセラーも随時入荷していますし、もちろん、研究に関する雑誌については、公立・私立の図書館よりもより専門的なものが多数あります。

我々教員にとって雑誌というと、各々の専門分野の研究成果が載っているものを指すことが多いと思います。私の場合は洋雑誌を読むことが多いのですが、読む度に、最先端の成果の記事については驚きや喜びを、これまで直接的にあまりかかわらなかった分野については楽しみとわずかな焦りを感じます。

雑誌の記事は、今でこそオンラインのデータベースが利用できるようになりましたが、私が学生の頃はまだ、機械でコピーして勉強する方が多かったです。ゼミで使うために準備をする時は、周りの余白などがうまく取れるように、コピーの仕方も結構練習しました。特に、洋雑誌は大きさが通常の用紙のサイズと異なるものがあるため、何度も失敗しましたが、今となってもまだその感覚はわずかですが残っているようです。

最近は、結構古い論文でも電子ファイル化されていて、ダウンロードできるのも多くなりました。ノートパソコンやタブレットに入

れておけば、色々なところで見ることができ、便利になったことを感じます。

もちろん、学生さんや市民の方々は、研究の雑誌を利用する機会はそれほど多くないかもしれません。しかし、そういう方々に経済学を身近なものと感じることができる雑誌もあります。特に、経済学を学ぶにあたっては、「経済セミナー」はいいかもしれません。実は、私も学生の時からよく利用していて、この何年かは毎号読んでいます。経済セミナーは、毎号1つの特集記事と経済学に関する連載から構成されています。

特集については、まず初めに、そのトピックの最先端の研究者や専門分野の第一人者による対談があり、特集の内容について論じてあります。その後に、より専門的で深い内容の記事があります。

連載は、経済学の基礎となるミクロ・マクロに関するものであったり、個別の専門分野のものであったり、読む人のレベルに合わせて初級～上級の記事があります。経済学を学ぶにもいいですし、経済学を学んでいなくても読み物としても面白いと思います。そして、この連載の中から、書籍として発売されているものもあります。私が講義で使用しているテキストは、この雑誌に連載された。

なお、2009年3月までは毎月刊行されていましたが、2009年4月からは隔月刊になりました。隔月刊になってからは、その分ボリュームが少し増えて特集のページが多くなったようです。

と、取り留めもなく書いてしまいましたが、とりあえず、大学図書館の雑誌、読んでみませんか？

読書で語彙を増やそう

西　原　伸　子
（就職課・リーダー）

社会人1年目、職場の先輩が「読書は最高の娯楽。掲載されている情報からすると本はとても安い」と教えてくれたことがあった。1,000円足らずの本代で、今までに訪れたことのない世界や、作者の世界観、さまざまな考えを知ることができる。共感できるもの、思いがけない視点に出会うことができる。学生時代までは、同年代の親しい友人たちとの関わりが中心だが、社会に出ると、幅広い年代の人達と１日の大半を業務の遂行という共通の目標を達成するために協働することになる。そういう時に、「人はそれぞれ異なった考え方、価値観を持っている」ということを知っているのと、想像すらできないのは大きな差だ。私自身、社会人となった時に、周囲の大人たちの価値観の違いに戸惑ったことを覚えている。先輩は、私の視野の狭さを心配

し、教えてくれたのかもしれない。

人の脳の発達には言語の使用が不可欠だという。音声であれ、手話であれ言語を知る機会を持てなかったら、人格を形成できず、動物のままという主旨だったと記憶している。この話を聞いた時に、ヘレン・ケラーが「ウォーター」と発した感動的な場面が浮かんだ。ヘレン・ケラーという人物を書物で知っていたからこそ、脳の発達と言語の関係を実感することができた。

私たちは、日常生活の中で「読む」、「書く」という行為を絶え間なく行っている。ごく自然に行っているが、社会に出て、仕事となるとそうはいかない。間違いなく「語彙」は豊富なほうがいい。語彙という言葉に「？？？」と思う学生もいるかもしれない。敢えてフリガナはつけないでおく。すぐに辞書で調べてみることをお勧めする。読めない漢字を調べるにはどうするか、知恵を絞ろう。言葉を辞書で調べ始めると、説明文に知らない言葉や、曖昧に理解している言葉に出会ったら、さらに調べてみる。こうやって自由に使える言葉を増やしていく。新しい言葉に出会った時に、「そういう意味か！」「へえ～」と小さくても感動があると記憶に残りやすいと思う。

就職活動でも、言葉の引き出しがたくさんあるほうが有利だ。「優柔不断」と表現すると短所に聞こえるが、「思慮深い」というと好印象だ。社会に出ると、さまざまな場面で自

分のことを話す機会がある。自分自身を相手に印象に残るように伝えられる言葉を持つことは大切だ。第一印象はとても重要である。

大学は誰からも強制されないかわり、自ら考え行動することを要求される。自分とは何者か、自分自身と向き合うチャンスがたくさんある。社会人として自立して生きていくための大切な準備期間だ。この貴重な時期に、多くの本を手に取ってみて、面白そうだと感じたら、読んでみて欲しい。すべての本の中には、あなたが「へえ～」と思う文章が少なくとも１箇所はあるはずだ。

北海道上川郡美瑛町　「哲学の木」

『日記といふもの』

栗　須　大　貴
（地域政策学科・3年）

「男もすなる日記といふもの、女もしてみむとてするなり。」の出だしで始まるのは紀貫之の土佐日記（935年頃成立）であるが、1000年以上も昔から日記というものが存在していたことに驚く。さて、日記文学の成立云々の話は紙幅の都合上割愛させていただくことにして、私が今回話をしたいことは、「読者諸氏は日記を書かれたことがあるかどうか」というものである。というのも、専用の日記帳にしろ、適当なノートにしろ、毎日欠かさず日記を付けていけばそれは立派な本（伝記・随想）になるのではないかと考えたからである。最近自費出版で自分史を遺す人（大多数は人生の佳境に至った男性である）が増えているようだが、おそらく大抵の人は本というものを書かずに生涯を終えることだろう。

かく言う私は以前日記らしきものを付けていたことがある。その日あった出来事や読んだ本の感想、考えたこと、面白かったこと……徒然なるままに書き連ねていたのである。大学に入ってからというもの、一人暮らしによる開放感と自分自身が決める生活リズムによって、日付の感覚に支障をきたし昨日今日の記憶すら覚束無くなってしまった。そこで、始めたのが日記であった。日記によると2011年1月23日に私は森見登美彦『恋文の技術』、斎藤智裕『KAGEROU』を読んだとある。当時の私は、『恋文の技術』に関しては大変面白く思ったらしいが、『KAGEROU』については……まあ、楽しめなかったようである。他にも、2月27日に大森望編『不思議の扉ありえない恋』、川上弘美『ざらざら』などなど。改めて見てみると、小説ばかり読んだようだが、私も一応は大学生である。学業に関連した書籍も読んでいるようで、吉川徹『学歴分断社会』や平田俊博『柔らかなカント哲学』などもあった。読んだ書籍について何かしら感想めいたものを書いているのは面白い。また、バレンタインや七夕、農事暦の芒種についてなど季節感あふれる内容や時にはアニメの感想なんてものも書いていた。

出来事を忘れないために書き始めた日記であったが、やはり見返すことは大切である。忘れていた自分の感想や意見が蘇ってきて、なんともこそばゆいが、なかなかに意義あることをしていたのではないだろうか。「以前……付けていた」と書いたが、実を言うと、今現在は日記をつけていない。己の怠惰と他人にうっかり見られた時の恥ずかしさから止めてしまったのである。意志薄弱である。しかしながら、日記の偉大さを改めて思い知った私は猛省中である。日記とまではいかずとも、読書遍歴について書くことなら続けられそうである。毎日欠かさず云々を訂正する。読んだ時だけでもいい。読者諸氏も、日記を付けていないなら、やってみてはどうだろうか。続けられれば自分だけの大切な本が出来上がることであろう。

附属図書館からのInformation

1F　展示コーナー

洋　書　の　ご　案　内

洋書を読んだことがない、外国語は苦手…という方でも読みやすい洋書を集めてみました。貸出を希望される方は２Ｆカウンターへお問い合わせください。

便利なオンラインデータベースのご紹介　※学内者のみ

●企業史料統合データベース

財務諸表をはじめ営業の概況などが記述され、日本の近現代における企業の経済活動の実態を知る上で最も基礎的な史料である「営業報告書」、企業の事業計画・見通しについて詳細に記述され、数期にわたる比較財務諸表が掲載されていることが多い「目論見書」、そして「営業報告書」の後身ともいうべき「有価証券報告書」。マイクロフィルム版「営業報告書集成」収録資料を中心に、これら3つの史料群からなる約10000社20万件を収録したデータベースです。企業名・収録期間・業種・フリーワードでの横断検索が可能となっています。

＜アクセス方法＞
佐世保校附属図書館ホームページ→「学内の方へ」
→「企業史料統合データベース」

●税務・会計データベース

第一法規株式会社の税務・会計分野のWeb商品を1つに集約した総合サイトです。国税の主要税目である法人税、所得税、相続税、消費税をトータルカバーしています。制度解説、主要税目のQ&Aを一度に検索でき、最新の法令情報も速報として入手できます。

＜アクセス方法＞
佐世保校附属図書館ホームページ→「学内の方へ」
→「その他便利なツール」→「税務・会計データベース」

◆附属図書館HPアドレス　http://sun.ac.jp/lib

- **当館は本学学生以外の方でも県内にお住まいの15歳以上の方は利用できます。**
- **開館時間／平　日：午前8時30分～午後10時まで（学生の休業期間中は午前9時～午後5時まで）**
  土曜日：午前9時～午後5時まで
  休館日：日曜日・祝祭日・開学記念日（6/4）

編集・発行責任／長崎県立大学佐世保校附属図書館運営委員会　発行日／2012年8月7日